

藩翰譜

二六

内閣文庫		和書類
函	冊	
三五	三三	和書類
八架	六冊	

内閣文庫		和書類
函	冊	
三五	三三	和書類
七架	六冊	

内閣文庫	
番號	和 31369
冊數	6 (2)
函號	155 55



菅沼

源某

新三郎

信濃守

土岐守廣流云

某

新三郎

大膳大夫

某

新八郎

某

新八郎

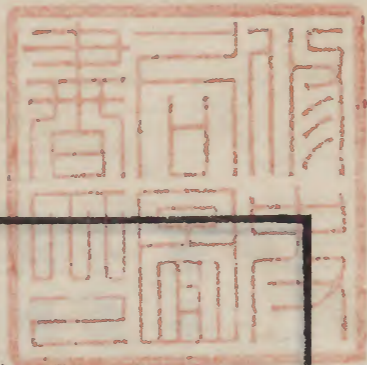
藏部正

定盈

新八郎

藏部正

慶長九年七月十八日年六拾歳



菅沼普

卷之一

定仍 新八郎 從五位下志摩守 慶長十年十月廿五日卒卅歲

定芳 左近藏部正三十五歲卒 從五位下

定昭 左近從五位下 左近將監早世家絶

定官 田中至殿頭

田中久兵衛吉奥養子

某

定恒 從五位下越中守

織部正源定盈ハ本ハ美濃源氏土岐カ流ニテ有ケ
 ル定盈カ四代ノ祖新三郎某後ニハ信濃初メテ三
 河國額田郡菅沼ノ地ヲ領セヨ守ハ當國ノ住人ト
 成テカテニケテ差リテ出リシ事。了ルニヨリ當國ノ
 馬ノカテニケテ差リテ出リシ事。了ルニヨリ當國ノ
 菅沼ノ地ヲ領セヨ守ハ當國ノ住人ト
 殿信濃守後治利軍起テ伊ハ長元二年南岐國小倉
 菅沼ノ地ヲ領セヨ守ハ當國ノ住人ト
 殿信濃守後治利軍起テ伊ハ長元二年南岐國小倉
 菅沼ノ地ヲ領セヨ守ハ當國ノ住人ト

菅沼

上
藩
翁
普
卷
之
一

活カハ領テ賜テ此テ程ニキナ改メテ管治ノ事ハ
 ハカリテ見ヘテ名ハ失フ定直ト云三ハ新ト名
 定盈カ祖父傳新ハ即ス名同野田ノ城ニ移ソリ住
 定盈父祖ニフキテ野田ノ城ニ住ム其ヨリ今川
 二屬ス永録ノ始々今川上總外氏真徳川殿ト中夕
 カイニ當國ノ住人徳川殿ノ味方ニ參ル者多シ
 定盈又徳川殿ニ組ニ參ラズ氏真ヤスカラ又事ニ
 思ヒテ夜ニ乘ニテ野田ノ城ヲ襲フ定盈無執ニ多
 勢叶ヒ難ク一方ウ千破リテ岡寄ノニ參ル氏真領
 テ駿河國人等ヲシテ城ヲ守ル定盈程無ニテ攻落
 シテ還住ム同八年當國ノ住人コトニク皆徳川殿
 二隨ヒ參ラセ又遠江國併ラレ事ヲ淺セル定盈讓

リテ申旨有リテ同十一年ノ冬ニ至テ伊井谷刑部
 等カ城ヲ取テ參ラス徳川殿悦ハセ給事大方ナラ
 ス領テ其賞行レテ十二月十二日遠江國ニ有處ナ
 本領コトク定盈ニ給リケル何合郷并ニ高郡等
 一月十日武田信玄駿河ノ國ヲ地一郷ニ此事十
 真遠江國見懸川ノ陣取セ給ヒリ軍勢ヲ今川ノ城
 二差向テ井伊谷ノカ侍管沼又右エ門時定守ラセ
 元龜元年ノ其姉川ノ合戦ニハ野田ノ城ニ留リ守
 一 同三年十月甲斐ノ武田大膳大夫入道信玄徳川
 二 中遠ニテ遠江國ニ癸向ニ二侯ノ城ヲ攻落ニ東
 參河ノ國人等忽ニ心變ニテコトマク武田ニ組ス
 定盈同次郎右エ門尉ニ人斗リソ日比ノ契ヲ遠ス



ニテ徳川殿ニ御為ニ野田ノ城ニ立籠モリ去程ニ
十二月廿二日三方カ原ノ合戦武田入道ウ千勝テ
刑部ニ陳ヲ取り明レハ正天元年正月十一日野田
ノ城ニ推寄セタリ徳川殿並テヨリ定益カ加勢ト
レテ松平幸一郎忠正ヲ差向ケラルサレ尺城中毎
勢ニレテ籠ル處ノ軍兵四百人ニハ過サリケリ此
城究竟ノ要害タヤスク落サルヘン尺見エス入道
謀ヲ廻ラシ地ヲ穿テ城中ニ有處ノ伊ノ水エト
ニクニ切落シケレハ御方俄ニ水トホシクナツテ
士卒コトニ夕濁リテ死セニトス定益次郎左五川
尉ト共ニ自首ハ子テ士卒ノ命ニ代ニト謀ツテカ
タキノ俾ニ使ヲ立テアクトツケニ人城ヲ出テ首

ハ子ニトヒシ処ヲ入道トカクタハカツテ生捕ニ
ソニタリケル山縣三郎兵衛尉昌景預人トナツテ
郡内ノ地ニ居テ行今ハ身方ニ参ラレニトコソア
ラマホシケレト様々ニ教訓セシカ尺二人兼引ノ
氣色モナシ入道サラハ斗口フヘキ様有トテ徳川
殿ニ使者ヲ立参ラセテソレハ東三河ノ國人等カ
人質給ワラニニハ野田ノ城ニテ生捕タル二人ノ
者ヲモ返シ参ラスヘキニテ候トイワセタリサ
ハ治ラニト答ヘ給ヒ籠手股嶺長篠ノ者共カ質等
ト取返シ給ヒシカハ定益等ハ事故ナクソ歸リテ
ケル此時徳川殿ハ野田ノ城ニ信長ノ加勢ヲ出サセ給ヒ
フニ笠山カ原ノ戦ハ給ヒニ信長ノ加勢ヲ出サセ給ヒ
長トカクメライ給ヒニ信長ノ加勢ヲ出サセ給ヒ

等ノ城ヲ守ル明レハ六年定盈伊勢ノ國長島ノ城
 賜ハリテ移ル石二万同キ九年七月十八日六拾三歳
 ニテ平ス嫡子志摩守定仍父ニソキ明ル十月廿五
 日三十歳ニシテ世ヲ早フス男子ナケレ八十一年
 十二月定仍カ舍第左近定房ヲ兄カ世嗣トナサレ
 テ長島ノ城ヲ王ワル定房ハ定盈カ弟三男タルヨ
 見ルニ定房ハ二男ニシテ外ノ男ミハス有記ニ男
 ハ主殿ハ定城トシルセリテ外ノ男ミハス有記ニ男
 慶長十九年二月廿七日叙爵ニテ織部正二任ス大
 坂前後ノ戦ヒニシタカヒ首九十切テ献ル九拾二
 元和七年近江國膳処ノ城ニウワテ三万寛永十一
 年十一月丹波國龜山ノ城ニウワル四万石マタハ
 共云定房五十五歳ニテ卒ス卒セニ年未夕詳カナ

ラス一説ニ正保四年三月卒ス云イフカニ
 嫡子左近将監定昭家ヲ継等二万所領分千ニト云
 カナラス幾程ニ無ニテ卒ス男子ナケレ八家タ
 へ又此人卒セ保元年ノ日祀ニナラス寛永二
 賀守忠晴ニヤ正保元年ノ日祀ニナラス寛永二
 夫定昭カ跡ト見夕定昭ニ卒ル賜ル是管沼左近大
 治二七千石越中守定恒三千石ヲ後分千賜七也

[Faint, illegible text in a large rectangular frame on the right page]

北條

平綱成 本稱福島左卫門大夫上總公 天正十五年卒七十三歲

氏繁

左卫門大夫 常陸公 天正元年卒四十三歲

氏勝

左卫門大夫 慶長十六年卒三十三歲

氏廣

新左卫門 慶長十七年卒三十九歲

某千葉喜九郎

某新八郎

女子二人

氏重

出羽守 莫保科彈正正三郎 万治元年十一月朔日卒六十三歲

氏長

新藏 出羽守

氏平

新藏

元氏

新左卫門

[Faint, mostly illegible handwritten text in a large rectangular frame]

北條 福島

左衛門大夫氏勝ハ故左工門細成カ孫ニ細成元ハ
 福島ト名乗ト父祖累代駿河國ト今川宗徳ノ被官
 遠江國高天神ノ城ニアリ細成カ父福島上總介正
 成甲斐ノ武田ト戦ワント西郡ニ発向レ信虎ノ信玄
 カ為ニ討ル細成幼ケ毎ニテ父ニラクレ相模國ニ
 来リ北條左京大夫氏康ニ仕フ細成未タ童ナリレ
 時容貌コトニ美シク又サル者ノ子ナリケレハ氏
 康ノ寵淺カラズニ二十歳ノ時モト、リ取上サセ
 名給ヒテ北條左工門太夫ト召サル家ノ系圖ニハ
 舍弟ノカヨシ見エ武藏國河越ノ城ハ大事ノ処エ
 アホツカナシ工武藏國河越ノ城ハ大事ノ処エ
 ルナレハ氏康カ身ヲカチテコヨ守ラメトテ此

門大 此後 説慶 公二 申ヲ 夜カ 残明 二軍 廿城 益カ 手マ
 大夫 後知 大也 後方 日ハ 軍ケ スレ 陣兵 レニ 八負 横
 共知 異云 氏氏 晴キ 上ス 是破 引ハ トヲ タノ 計千 フサ
 申成 相模 八甲 今陽 二軍 息鑑 ラニ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 子息 氏繁 城ヲ 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 氏繁 城ヲ 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 成城 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 人ヲ 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 左京 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 大夫 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 ヲ領 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 讓左 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討
 讓左 領レ 京憲 大政 夫ト ヒ左 十并 二集 細フ 二康 上キ テ討

我身 八上 總々 二ノ 成テ ケル 知成 凡戦 二逢 事小 軍
 八数 ヲ知 ラス 大軍 八三 十度 向フ 處破 ラソ ト云
 事無 知成 カサ、セ 二旗 黄ナル 宿ニ 墨ニ テ八 幡ノ
 二字 書キ タレハ 黄八 幡氏 名ワ ケタリ 年積 リテ 七
 十三 天正 十五年 二ソ 歿シ テケリ 其子 左兵 門大夫
 氏繁 父ニ オトラ ス剛 ノモ ノ十六 歳ニ テ軍 始自 ラ
 敵十 三騎 ヲ切 テ落 スコ、カ 二レコ ノ戦 ヒニ 其高 名
 教ヲ 二レラ スコレ モ子 息氏 勝ニ 左兵 門大夫 讓リテ
 自カラ 八常 陸々 ニナ リテ 年ワ ツカニ 四十三 天正
 六年 父知 成ニ 先テ 飯湫 ノ城ニ 歿ス 氏繁 カ男 左兵
 門大夫 氏勝 祖父 ニソ キ一 方ノ 大将 ヲ給 ハリテ コ
 一カ 二レコ ノタ、カ フ莫 十 余年 一度 モ不 覺ノ 名ヲ

藩翰譜 卷之

取ラス天正十八年ノ春豊臣太閤関東ニ向ヒ給ヒ
ニ時左卫門大夫氏勝ト氏政父子ノ命ヲ受テ松田
兵衛大夫タスケントテ間宮守豊前朝倉能登等ト曰
シク山中ノ城ニヨモル三月廿九日寄手ノ多勢マ
ソ山中ノ城ニ推寄テ攻戦フ城中ノ兵多クウタレ
テ城忽ニ落氏勝希有ニノカレ出テ夜ニ入テ道ヲ
失ナヒ既ニ腰切テ灰セントス舍弟新八郎木村三
河守堀内日向守等カ為ニトメラレサラハ我城
ニ引返シ寄手待テ尋常ニ討灰ニ今日ノハ千ヲス
スカメテ至徒ハソカ十八人皆モト、リ切テ甘繩
ノ城ニ入ケリ氏政氏直此由ヲ聞テ栗田ニ何某ヲ
使トシテ柳山中ノ城落サレシ事氏勝一人カ武勇

カノタラサルニアラス是ニカシナカラ當家ノ運
傾カントスルニヨル慶カ氏勝早ク此城ニ馳参リ
テ猶當家ノ運困カルヘキ謀ヲ助ケ参ラスヘント
ソイワセラル氏勝晨リ兼テ氏勝今何ノ面目アリ
テ再ヒ見参ラルニハ入候ヘキ夕、御赦ヲ蒙リ
此城ヲ守テ折灰仕ルヘキニテ候ト申切テ終ニ参
ラス氏政父子サシ人ノ申旨ニソキテ扱ハ是モ心
愛リニテケリトイカリ玉ヘハ氏勝又大ニ恨ム此
氏勝ハ昔ヨリ徳川殿ノシロシ召レシ者ナレハ御
使ヲ給テ都籠^{左五門}下^{三郎左衛門}関東ノ城々等攻メ落サレ今
ハ小田原ノ城落ニトスル遠キニ非ス速カニ降人
トナワテ参レニニハ家康イカニモ命ヲハ申コフ

テ参ラセントソ仰セケル氏勝此由ヲ聞テ徳川殿
 ノ御情成シテモ忌レ参ラスヘキ去ナカラ既ニ討
 灰ヲオモイ定メ候上ハ仰ニ隨ヘシ死覚ヘストテ
 御使ヲ返シケリ御使三度モ及シ後四月廿一日廿
 繩ノ城ヲハ本多御原井伊ノ人々ニ下渡シテ徳川
 殿ノ御陣ニソ参リタル北條程ナクホ口ヒシ後徳
 川殿ノ御家人ニナサレ上徳國岩留ノ地ヲ下シ玉
 フ石一萬関ケ原ノ戦ヒニ参河國岡崎ノ城ヲ守リ慶
 長十六年五十三歳ニシテ卒ス氏勝初メ保科弾正
 忠正直ノ二男養フテ家ヲキトシ出羽守氏重トソ
 申ケル大御取所ノ大坂前後ノ戦ヒニ氏重將軍家
 ノ先陣ウテ馳向ヒ寛永ノ廿二年六月廿一日大番

ノ頭トナサレ月十七年九月十日下徳國岡宿ノ
 城ヲ賜ハリ國久蝕ヨリ岡宿ニ移ルト不審ニ駿河
 正保元年正月十一日駿河國田中ノ城ニ移リ
 慶安元年九月十二日遠江國懸川ノ城ニ移ル石三萬
 万治元年十一月朔日六十三歳ニテ卒シテ世ソキ
 魚ケレハ家絶エタリ
 北條ノ系圖ヲ見ルニ一ツニ曰常陸外氏繁主ノ氏
 康ノ賀ニナサレテ多クノ子ヲ設ケテ嫡子左五ノ氏
 夫氏新勝ニ成ヌ其子安房守氏長其子孫七郎ノ家嗣
 四男新藏ニ成ヌ其子大長十一年卒ス然
 三々控スルニ左工氏勝慶長十一年卒ス然
 テ辛三又新藏ニ成ヌ其子大長十一年卒ス然
 レ繁廣カ氏勝ニ成ヌ其子大長十一年卒ス然
 ノ説ニ隨カフ也

[Faint, mostly illegible text in a large rectangular frame]

山岡

伴某

信濃守 伴四郎倭伏資兼後云

某

因幡守

景猶

景隆 美作守

景佐 對馬守

景友

備前守 道阿弥

景本

新太郎 実主 計頭 景以男
道阿弥 辛時 景本 猶幼 以景以
繼道阿弥 後

某

甲賀佐三門 慶長五年八月朔日於伏見城戰歿

藩翁譜

奥ノ武衛家衛ヲホロホ
セシ人ナリ
伴資業近江國甲賀郡大原ニ住居レケル太郎景廣
カ時ニ至リテ同國毛牧ニ住シケレハ毛牧太郎ト
言其後山岡信濃守勢多ノ城ニ在リ
信濃守カ時城ヤケテ系圖ウセマ何レノ代ヨリ山
岡ト名ノリシニヤ
其子因幡守其子景猶景猶四人ノ男アリ嫡男對
馬守景佐同國膳所ニ住ス三男ハ備前守景友也
四男ハ僧ニナツテ石山世尊寺タリ甫卷ト云ント
也其後還俗シテ甲賀佐左五門尉ト名ノリテケリ
天正十年六月織田殿討レ玉ヒ徳川殿和泉ノ國境
ノ浦ヨリ三河國ニ歸リ給ヒシ時景隆景佐景友三
人ノ兄弟明智光秀カ位ニレタカイス勢田ノハシ

燒落シ徳川殿ノ御供ニテ信樂ノホトリヨリ甲賀
國ノ畷伽ノ峠ト云所マテ送り奉リテ路次警衛才
コタラス其レハサレハ徳川殿モ彼兄弟ノ輩ヲハ
去タノモレキ人ニ思召其後兄弟豊臣家ニ属シ参
ラセ備前守景友慶長ノ初メ入道ニテ宮内卿法印
ニナサレ道阿弥陀佛ト號シケリ以上或記ニミヘ
大岡薨レ給ヒ大坂ノ奉行等カ徳川殿失ナヒ参ラ
セントスト計リ度コトニ入道ワ、モ徳川殿ノ
御館ヲ守リケル慶長五年奥ノ會津ニ向ハセ玉
ヒシ時入道ハ御供ニテ馳セ下ル舍弟甲賀佐左
衛門尉ハ伏見ノ城ニ留マリテ上方ノ軍起リテ時
城中ニテ討死ス斯テ上方ノ軍起リテト聞ヘテ徳

川殿下野國小山ノ御陣ニ東國下向ノ大名ヲ召レ
 テ人々ノ思フ所ヲ尋子サセ玉ヒシニ道阿弥入道
 岡江雪丞二人ノ仰ヲ給エケル人々皆御方ニ担シ
 参ラスヘント申スサラハ上方ニ向ツテ合戦アル
 ヘシトテマフ先陣ノ人々ヲ差向ケラル入道月ニ
 夕馳上リ福嶋掃部頭正頼カ加勢トニテ伊勢國長
 島ノ城ニ立籠リ原田隠岐守頼房ト戦フ九月十六
 日正頼カ舎兄左五門太夫正則カ使者来テ昨日ノ
 戦ヒニ上方ノ軍勢破レ又ト聞テ入道手勢三百七
 十余人ヲ引具レテ長島ノ城ヲ出テ川舟ニ取乘リ
 ラノカ領大島居ニ指カ、ル長束大藏大輔正衆貞
 軍レテ落行ニ行アイ散々ニ抄千ヲニ首百余切リ

取テ又衆名ノ陣ニ推寄セ城中ニ使タテ氏家兄弟
 ヲ降人トナレ内膳正城請取テ番ノ兵ヲコメ置神
 戸ノ城ニ向ヒ羽柴下總守雄利カ城ヲ取テ城ニハ
 番ノ兵ヲト、メ龜山ノ城ニ向フ岡本下總守家憲
 モ降参ス爰ニモ兵ヲ分千テ城ヲ守ラセ十月六日
 伏見ノ城ニ集テ兩御所ノ見参ニ入ル入道カ振マ
 イテ感レ玉フ夏大カタナラス月キ八年十月三日
 大御所入道カ伏見ノ家ニハタラセ給ヒテ終日ノ
 饗宴アリ此日入道カ養子新太郎景本生年八歳ニ
 ナリケルヲ見参ニ入ル陸奥古渡ノ地ヲ入道ニソ
 給ワリケル石一萬明レハ九年十二月廿日入道六十
 二歳ニレテ卒ス新太郎景本未タ幼ケナカリレカ

八景本カ実父月レキ主計殿景以二入道カ処領ヲ
 賜リテ其ノ政ヲツカセラルル
 五時入道ハ領御ス。控ケスルハ初ノ會津ヘ向ワレ給ニ
 我々奇騎ノ御足輕ノ兵百入ヲ預ケテ伏見ニ籠レ申
 頭景以入道御カ記跡ヲ見エテ又家忠日記追加ニ計
 八入道當家ニ仕ヘテモ甲賀組ノ頭タリレトミア
 工レクワレキ事ヲ知ラス

小笠原

源某

從五位下和泉守初薩摩守殿家人其後為御家人
 慶長十四年三月廿六日被罪未詳系譜不知其詳

[Faint, illegible text in a large rectangular frame on the right page]

小笠原

和泉守源某ハ初大御所ノ仰トシテ薩戸守殿ニ附
 ラル慶長十二年ノ春守殿カクレサセ給ヒニ度関
 東ニ召サレ下總國佐倉ノ地ヲ賜ヒ二万八明レハ
 十三年ノ秋常陸國笠間ノ城ヲ玉フテ移ル石三万
 十四年三月故薩戸守殿ニ家人畠永丹波守同レキ
 子息父子三田加賀守松平振津守同ク石見守等旧
 罪見ハレテ所帯ヲ収上セラル又守殿ニ殉テ歿セ
 レ小笠原監物カ罪状モ見ハレレカハ彼ノ手ニ属
 セニ侍三人誅セラル彼與黨トノ聞ヘニ此月廿六
 日和泉守又罪蒙リ役收ヒラレ追劫平又
 此人イソレソ小笠原ニマ詳ナル事ヲ知ラス

時宗 從五位下 淡路守 宗泰 四郎左門尉 秀行 從五位下 越前權守

宗秀 新左門尉 淡路守 宗子 駿河守 秀直 淡路守

義秀 淡路守 滿光 三郎早世 憲秀 淡路守

秀光 紀伊守 秀宗 淡路守 氏秀 淡路守

宗成 皆川内少輔 此後稱皆川 成勝 山城守 後宗 山城守 欽并入道

廣照 山城守 從五位下 号老用人 道寛 永四年十二月廿二日卒 隆常 從五位下 志摩守 山城守 正保二年卒 成郷 又三郎早世家絶

皆川 山城守 藤原廣照ハ秀郷將軍九代ノ孫小山下野大

皆川 山城守 藤原廣照ハ秀郷將軍九代ノ孫小山下野大

掾政光カ嫡男下野國ノ任人長沼五郎宗政カ十五

代ノ後胤ナリ廣照カ五代ノ祖長沼淡路守秀宗

比嘉人皆川ノ地ニ移ル秀宗カ孫宮内少輔宗成ハ

シメテ皆川トハ名乗テケリ相模ノ國北條カ起ル

ニ隨ヒ彼ノ家ノ被官トシテ天正十八年ノ春豊臣

関白小田原ニ攻下リ給ヒシ時山城守廣照成田

守下總壬生ノ者共ト北條陸奥守氏照ニ隨テ竹

浦口ニ出向テ防キ戦ハントス三月廿九日山中ノ

八日明日寄手小田原ノ城攻ラレヘシト聞ヘシ夜
廣照ヒソカニ城中ヲ悉ヒ出徳川殿ニソキテ関白
ノ御陣ニ降参ス徳川殿兼テヨリ廣照ヲシロシメ
此年ノ秋北條ホドヒ後本領ナレハ皆川ノ地ヲ
ソ賜ハリケル石三万慶長五年ノ秋東西ノ軍一時ニ
起ル廣照父千八三河守殿ノ御手ニ属シ東國ニ留
マル太田原ノ邊ニ同キ八年二月六日上總外殿ニ
信濃國ニシテ所領ノ地参ラセラレシ特廣照彼俄
ニナサレテ飯山ノ城給フ四万石ヲ領ス是ハ上總
時廣照取リテ養フニ参ラセシ故也
然ルニ外殿ノ御振舞ヒアラシクマシマシテ古
キ老者ノ諫ヲモ用ヒ玉ス十四年九月廣照ヲ始メ

トレテ山田長門守松平讃改守駿河ノ國府ニ参テ
密カニ大御所ニ訟ヘ申ケレハ外殿此由関東ニテ
聞シ召レ夜ヲ日ニ繼テ馳ヒ参リ玉ヒ一々ニ陣シ
申サセ玉ヒテ彼等ヲ急度罪科ニ處セラル一キ由
ヲ頻ニ訟ヘサセ玉ヒシカハ廣照ハ外罪一等ヲナ
クノラレ所領ヲ復収セラレ同キ十月廿七日残ル
二人ハ誅セラル廣照預テ入道シテ老圍ト号ス納
男志摩守隆庸モトヨリ將軍家ニ仕ヘ参ラセ慶長
五年十一月十九日叙爵ス父カ罪蒙リニ時隆庸モ
其縁坐ニ所セラレ上總外殿御行ヒ改リ玉ハス大
御所ノ御不カウ蒙ラセ給ヒツヒニ流サレサヒ給
ヒ又其後隆庸將軍家ニ召返サレ元和九年常陸國

新治郡府中ノ地ヲ給ワリ一石三
 テ寛永九年大番ノ頭ニナサレ正保二年ニ卒ス
 子又三郎成郷家ヲウキ幾程ナクテ世ヲ早クシ世
 継ナケレハ家絶又サレ皆左京慶隆ヲ御家人ト召出
 七レナリ

酒井

某左衛門八

源重隆

山城守從五位下

重照 權兵衛

雅樂頭忠世男実金出雲守
 可頼子寛永年中被罪配流備
 後因其後自殺

[Faint, mostly illegible text in the right-hand column, possibly bleed-through or very light ink.]

酒井

山城守源重隆ハ雅樂頭忠世カ子矣ハ金森出雲守
可頼カ子ナリ童ノ時ヨリ左大臣家ニ仕ヘ奉リ堀
田加賀守正盛ト一双ノ寔臣ニテ官モ職モ五ニ上
ラス凡賞録給フニモ正盛給フ日ハ月レク重隆モ
給ヒ重隆給フ時ハ正盛モ給ハラスト云事ナレ正
盛祿三万石ヲ給ヒレ時重隆モ月レク日ニ三万石
ヲタマフガイツクヲ領セレニヤ
イカナル故ニヤ重隆身ノ煩フル由ヲ申レテ籠リ
居テ年ヲ經シ後忽ニ罪蒙リテ備後國ニ流サレ水
野日向守勝成ニ預ケラル世ニ傳フルハ重隆薨リ
二人ヲ設ケ妾ノ子又ニ人ヲウシ中ニ彼ノ妻アリ
隆カ病トイエル事偽ナリ身奉公ノ勞ニ夕ニ夕ハ

スレテイカニカク多ノ子設クハ不審蒙リテト云
酒ト色トニナリナク多ノ子設クハ不審蒙リテト云
ナリ
其後加賀守正盛カ次第ニ径上リテ四位ノ侍從ニ
テ佐倉ノ城ヲ賜ヒレ事ヲ聞テサシモノ正盛トハ
重隆ニ双ノ者ナリケリイヒカイ無キ命ナカラヘ
事恥多シト食ヲ断テ疾ケルトソ聞ユニ
其後其二男權兵衛重照ヲ御家人ニ召ニ出サレ嫡
子ヲハ右五門人トイヒレ早世ニケルニヤ

堀

藤原利重
從五位下市正
利昌 後政昭
包周

從五位下市正
実天方主馬
道婿男延宅
年十二月十日
被
役叔所領

[Faint, mostly illegible handwritten text in a large rectangular frame]

堀

市正藤原利重八大相國家ニ仕へ奉テ大番ノ頭ニ
至ル此家何レノ流レニヤイマタ知ラス又歴任ノ
左大臣家ノ御時初メテ寺社奉行職ヲ置カレ利重
堀或部少捕直元ト二人其事ヲ典トリ其後御奏者
ノ事ヲ兼リ常陸新治郡近江浅井郡安房長杖郡上
總望邑郡此城ニシテ處領給ヒ又一萬二千石ヲ領
言處ニ任セシナリ卒シニ年月ハ知ラス
其男越中守利昌家ヲツキ 後ニ路昭ト改タメタリ
萬治元年十月十一日五十八歳ニシテ卒ス子ナカ
守リシカハ天方主馬俱道カ男涼太郎包周養テヨ

續トス包周利昌女家ヲ継キ寛文三年十二月叙爵
レテ市正ニ任ス延宝七年ノ十二月十一日罪蒙リ
テ廢領役扱ヒラレ又給ト息主税三千石ヲ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

福嶋

源某

工部門尉

某

八郎 一云刑部大輔正之

正則

市松

忠勝

正長

送五位下左三門

大文天正十八年

從四位下侍從元

和三年六月廿一

日洗三位

同五年六月九日取

流信州

寛永元年七月十三

日死三十四歳

從四位下侍從兼備前

守 元和 年六月配流

同六年七月十四日卒

九兵衛宣齊

某

市松九兵衛

正頼

攝部 equal 元和二年六月有罪被送収所領訖

福嶋

七工門尉源正則、尾張住人と右工門尉某カ福
 男初ノ豊臣ノ大岡播磨國ノ守護アリシ時正則
 童ナリシヤヨリ側近ソ呂仕ハル正則豊臣家ニ
 云ホメ許サレル天正六年播磨國三木ノ城ヲ攻
 事ヲ知ラズル正則生年十八歳初テ高名アリシヨリ鳥
 取山崎ホ合戦ニ功アラスト云フナシ志津ヲ
 嶽ノ先驅七騎中ノ第一ニテ不次ノ賞ヲ賜フ此
 年天正十一年十一月ニ叙爵シテ左工門尉トナ
 廿レ此戰ノ時字ハ市松一番ニ首小牧雜賀ノ軍
 二從テ同キ十三年ノ其四國ノ平キシ後伊豫地

賜フテ今治ノ城ヲ領ス石十十五年紫筑ノ陣ニ
 從ヒ十六年肥後国宇土ノ一揆ヲ平ケ十八年関
 東ノ軍ニ並山ノ城攻破リ文祿ハシノ朝鮮ニ
 出シ渡リ外國ニ名ヲ振ヒ初メ諸軍勢王城ハア
 戦ヒ正則ハ正則稷山ノ城ニアリテ大朝鮮ノ兵ト
 ハ軍ニ勝リ事ヲ得ハ其後ト度近攻メ来リ云フナ
 文祿四年七月関白秀次ノ御事アリシ後正則尾
 張國清洲ノ城ニ接ル石十又四位ノ侍從ニササ
 レ羽柴ノ氏ヲ許サル慶長三年八月大岡薨シ給
 テ後徳川殿ノ御養君ヲ松平徳川殿ノ御外姪トシ
 正則ヲ嫡刊部少輔正之ノ妻ニ定メラレシヨリ

事起リテ大坂ノ奉行亦加賀大納言利家ヨリ
 メテ徳川殿ヲ矢ヒマツラセシマ是奉行ホト計
 ヲ答メシサシ事正則御方トシテ最初ニ徳川殿
 御籠ニ走セテ程ナク事平キシ後正則亦又石
 田治部少輔三成ヲウタントセシニ徳川殿ノ中
 和ケ給シニヨツテ事又成キヌ明レハ慶長五年
 秋徳川殿奥ノ上取進討ノ為メ御下向アリシ
 カハ正則父子同ク馳下リテ下野国宇津宮ノ陣
 トル大坂ノ奉行亦カ兵起リテ上方大ノ乱レ徳
 川殿東国下向大名悉ク小山ノ御陣ニ召サレ上
 方又乱レヌト伺エ人々ノ家悉ク大坂ニアリ家

康此事ヲ思フニ心苦シマシテ人々ノ心ノ中思
知リヌ抑々弓箭トル身ノ習ヒ今日ハ身方明
日ハ敵トナラフ珍シカラヌ去ハ今人々ノ敵ニ
シシ給ハシモ家康イカラ怨ヲ殘スヘキ家
康モシ勝軍シタラシ後人々ノ見舞ニ入ラシ時
今迄ノ好ミ忘ル可ラス疾々是ヨリ引返シ大
坂ニ歸リ給フヘシト仰ラレ人々未タ申出ス旨
モナカリシ処正則一人進ミ出上方ノ軍起リシ
下風分ノ及フ所ハ大坂ノ奉行ホ秀頼ノ仰ヲ蒙
リテ天下ノ軍勢ヲ催ストコソ美レ秀頼ワカ
ハ歳ニソナラセ給フイカテ斯ル御結講ヤ有レ

疑ヘカラス人々ノ心ハイカニモアレ正則ニ於
テハ関東ノ御方トシ彼凶徒ホ誅伐仕レヘリ
候ト申ケレハ有合所ノ大名一人モ殘ス皆正則
ノ申旨ニ從フ徳川殿悦セ給フ事淺カラス正則
領テ海道ノ先陣シテウツラ上リ美濃國高洲竹
ヶ鼻ホノ城ヲ打破ツテ岐阜ノ城ヲ攻落シ関ヶ
原ニ戦ヒテ多クノ敵ヲウチテシ毛利嶋津ホラ
降シテ天下委クニ徳川殿ニ歸セシ正則カ功
莫大ナリ去トモ此人心猛ク行累クシテ人ノ命
ヲ絶ツ下混忠ヲ殺スモ思ハスマシテ此度ノ功

ミヤ 誇リケン 不思議ノ 振舞多カリケリ 関ヶ原
ノ 丁 終テ 後徳川 殿近江 国草津ノ 宿ニ 至リ 給ヒ
浴中モ ノ 静カテラス ト 聞シ 召 狼藉ヲ 鎮メラレ
シカ 為 正利ホ ヲシテ 都ニ 登ラセラル 正利カ 侍
ノ 使トテ 後ニ サカツテ 馳行日ノ 岡ノ 関過ルト
テ 番ノ 兵ト口 論ニ 及フ 丁アリシカ 乙ワ 主ニ 追
付テ 使ノ 丁 終テ 後身ノ 暇賜リ 引返シテ
戦ヒ 死セシトテ 事ノ 用ヲ 申 正則馬 扨タテテ 是
ヲ 聞以ノ 外ニ 氣色ソシシ 漸ニ アツテ 後天 晴汝
主ノ 使アレハ トテ 耻 忍ニテ 歸リ 冬リ 身ノ 暇賜
ハリテ 後大 勢ニ 向テ 戦ヒ 死セシスト 思フ 神妙

至ナリ 正則 思フ 子細アリ 我ニ 從テ 来レトテ
都ニ 具シテ カノ 侍ヲ 召シテ 汝一定 死シテナ
ト 問 仰ニ ヤ 及フヘキト 答フヨシ 去ラハツレ
ニテ 暇キレ 正則カ 身汝ニ カハツテ 徳川 殿ヨリ
彼 関守ラセ 置シ 伊奈 首取テ 汝ニ 手向シ 物ヲ
トテ 首 切落シ 伊奈 圖書カ 許ニ 贈リ 正則カ 侍伊
奈殿ニ 恨シ 申ヘキ 事アリトテ 暇マ リマ 御 冥檢
ノ 為ニ 彼 首マ イラス 其心ヲ 得レヘソ 様 候ト 伊
奈 其 使ニ 事ノ 様ヲ 聞 我手ノ 兵ニ 向フコソ 斯レ
事有リシトハ 初テ 知テ 仰 承リメトテ 使ヲ 歸
ス 井伊 本多ト 相 議シテ 番ノ 兵六人カ 首切テ 贈

伊奈ハ御光ノ正イヨク怒リ絶ヘス首悉
 且輕大将ノリ天下ノ人貴アリ賤アリ貴カ賤ニ
 クウテ帰シ凡天下ノ人貴アリ賤アリ貴カ賤ニ
 同シカラス賤カ貴ニ異ナルヲ誰カハ是ヲ知ラ
 サレヘキ正則カ侍ノ首冬ラスル所ニ給フ処ノ
 首ハ悉ク且輕ノ兵トコソ見ヘツレ其呂石モ
 トシカラス抑々正則カ身不有ニハ侍レトモ徳
 川殿ノ御方トシテ御先ツカケ随分微功ヲ顯シ
 事先ノ正則一身ノ功ニアラス是レ佞ナカラ我
 子郎亦ラカ命ヲ捨テ身ヲ顧ミサルニヨリシ
 ソレニ今正則カ侍ヲ以テ御手ニ屬セシ且輕
 准テラシル処正則天下ニ於テ面目ヲ失ヒス

北庄ニ行向ヒ賀シ申サレ守殿宗徒ノ御家人
 向ヒ正則此後ニ常ニ門下ニ伺候セシニ家ナ
 トラモカナフハ口ヲス家作レヘキ地給ハラハ
 ヤト望ミニ其後又正則年来ノ好ニ忘レ参ラロ
 入守殿天下ノ御大事アラシニハ正則必味方仕
 レヘシ去ナカラ大御ノ御置ル旨侍レハ正則
 カ身秀頼ノ世ニマシマサン限リハ心ニモ任ス
 へカラスト語テ暇給フテ帰ケル按スルニ守殿
 尾ノ御身ニ故正則此ノ御事マシラシ思ヒシハ
 ノ御元ニテ天大相ノ御事マシラシ思ヒシハ
 ハ賜ハ必テ天大相ノ御事マシラシ思ヒシハ
 ヤ何レハ必テ天大相ノ御事マシラシ思ヒシハ
 ハ名何レハ必テ天大相ノ御事マシラシ思ヒシハ

○

征

身大將軍、宣蒙ムラヒ給ヒシ日正則四位ノ少
將、ナサレ同キ七月右大將家、大相國家此時
姫君大坂ニ入ラセ給ヒシ上方ノ大名悉クソ
起證文書ヲ秀頼公ニ奉テ是正則カ計ヒシ
此ト聞ヘケル同キ十年五月右大將家將軍拜
賀、御時大御所モ都ニ渡ラセ給ヒシ日、豊臣
家、御對面、為上洛ノ事催サセ給ヒシ、淀君
御イキトウリ深クシラ豊臣家ニ御腹メサセ御
身ニウセサセ給ヒシト聞ヘシ京大坂ノ間以
外者サハカシクナル此レニ上方ノ大名ノ中ニ
此ノ由ヨス、メ申人アリト聞ヘシ此程ヨリ西

海南海山陰山陽ノ大名ホ城ヲ高クシ池ヲ深ク
シテ戰艦ヲヒメ、シテ作り出ス世ノ中何トナ
リ駭カシクナリ行、十二年冬正則ノ嫡子刑
部少輔狂病出来ヌトテ取テ推込メ終、首ヲ刎
リ、妻徳川殿、御養若シ歸シ奉ラヌ明レハ
十三年、春豊臣家痛瘡煩セ給フト聞テ上方ノ
大名忍ヒ忍ヒニ大坂ニ馳参ル中ニ正則最初
馳参ル十六年三月豊臣家上洛アリテ大御所
ニ御見舞、時從侍輝斐田肥後守清正藤紀伊守
幸長野三人御供ニ参リシ、正則ハ病氣ト称シ
大坂ニ残り止ル十九年加賀中納言利長卒シ

後子息利光朝臣此年三月大坂ヨリ父ノ郷ニ
 送リシ踪状ヲ得テヒリカニ大御所ニ献セラレ
 其文ヲ御読アルニ豊臣家御年正盛リヒナラ
 給ヒヌスヘカラク早ク大坂ニ参ラ輔テ参ラ
 セラレヘキ所也今城中ニアル所ノ兵糧七万斛
 正則ホツレ年頃射ヘシ処三万斛其餘金銀宝貨
 軍ノ支料乏シカラストノセタリケリカクニハ
 世ノ乱レシト近キニ有ヌト御心ツイタハラセ
 給フ程ニ此年ノ九月大坂ノ軍起リヌ正則初
 トシテ如藤肥後守忠廣亦カ大坂ニアリシ米穀
 悉ク城中ニ参ラス此時江戸ノ城増築カレ下

アリテ上方ノ大名多クハ此後ニ從テ正則同ク
 関東ニ有リ十月七日竹中伊豆守重利関東ヨリ
 駿河ニ馳セ参ル大御所重利ツメサレテ汝ハ正
 則ニ相カメラフ者ナレハ我為ニ又関東ニ趣テ
 正則申ヤンハ此度大坂ノ軍起リシト秀頼心
 トモ覺ヘヌ是ハ偏ニ織田有樂大野木村渡辺ホ
 カ計ヒニコソ有ヘケレ抑正則元ヨリ故大関ノ
 エカリニ付テ秀頼ニモ親シク又家康カ父子ニ
 モ疎ラス云レハ正則カ身ニ取テ何レノ方ニ
 組センモ思ヒワカシ正則縱令我父子ニ組シヌ
 味方ノ疑ヒナト勿テサラニ只スヘカテクハ

正則ハ関東ニ止ラ息男備後守ニ軍勢ツケテ冬
ラスヘキモノカト仰下サル同キ月十一日大御
处駿河ノ国府ヲ立セタマイ同キ十三日中泉
至ラセタモフキ正則カ使者竹中カ書ヲ帯シラ
馳セ冬ル重利正則リ旨ヲ陳テイハ、仰ツ、シ
ミラ集リヌ抑々此度大坂ノ兵起リシト在不思
儀トイヒワヘシ去ハ仰下サル、如ク秀頼ノ母
子カ、ルト思シ召タテ給フトモ思ハレス近習
ノ輩ノ計ヒヨリシト疑也有可ラス本ノ終リ
イレハ被御母子ヲ諫メマイラセシカ為ニ二人
使者ヲタテ、消息ヲ通シ候ヒヌト申上

然ル正純正則リ大坂ニ参ラヌル文取ニ見ルニ
今度大仏修造ノ事ニ月々兩御所恨ニ給フヘキ
御結構是レ只事トモ覺ヘ人偏ヘニ御家運ノ傾
ヲカセ給フヘキ時至リヌルニ杯侍レ只須ク母
子ノ御心ヲ改メラレ御過チヲ謝シ申サレシカ
為御母上ヲシテ駿府江戸ノ間ニ置ルヘキ所人
正則年来関東ノ御恩蒙アル身トナラニ心ニ
思ハス妻子又関東ニアリ今諫メ参ラヌル旨ニ
従ハセ給ハサラシニハ正則天下ノ軍將ニ先立
テ馳向ニ速ニ御勢ヲお破リラ参ニセシ其時ニ
至ラシヤマセ給フ事アリ也其カヒ有ヘカラ人

御家運、慶長渡セ給ハンセサナカランニ御計
ライニコソヨルヘケレトノセタリ同十六日
又正則カ使者大御所岡崎、御陳、馳セ冬一
通、書ヲ献マツルコレ正則先陳ヲ賜ヒ、馳セ
向、速ニ彼阿黨ホシ誅スヘキ由シ望ニ申所ニ
大御所正則カ申所神妙人只其終ニ、関東、有テ
妻子悉ク城中ニ冬セ置ヘシト仰アリテ使ヲ
ハ返サレタリ廿二日永原、御陳、竹中伊豆守
重利ヲ召サレテ急ニ正則カ国ニ馳セ下リ備後
守正勝トヒニ彼軍勢ヲ催シテ大坂ニ向フヘシ
ト仰下サル明レ、廿二日都ニ入ラセ給ヒシ日

正則カ使大坂ヨリ帰り参ル秀頼、御母子答ヘ
サセ給フ旨モナシトテ関東ニ馳下ル十一月十
一日將軍家都ニ入セラレ給フ黒田筑前守長政
加藤元馬助嘉明正則ト同シク止ラレシトソ
聞ヘケル同キ十九日備後守正勝重利トウナ
レ軍勢率シテ大坂ニハセ来ル豊臣家ヨリ正勝
ニ賜リタル教通ノ御書ヲ献ツテ城ヲ改メ、正則
カ家人ホニ下セシ状ヲ見シトテ、此人程ナリ
軍事ハ能心得為リシ人ナリト見ヘシ程ナリ
御中直リノ事ト、ノヲテ後明ル元和年ノ某
再ニ軍起リシニ、黒田加藤、將軍家ニ從テ馳
向ヒシカト正則カ、関東ニ止メラレ明レハ二

年四月大御所薨シテ給ヒ大相国家御代シマ
 シ召サレ正則ノ旧功ヲ思召サレケルヤ常ニ
 彼悪績ヲ免サセ給フ而已ニアラヌ三年六月冬
 議從三位ニナサル然ルニ此人悪行日ヨ月ヨニ
 超過シテ安藝備後ノ土民亦悉ク虐政ノ苦ニ安
 心マナリ刺己カスム廣鴻ノ城恣ニ増築テ天
 下ノ大禁ヲ犯シケレハ元和五年六月二日ト申
 ニ国悉ク収公セラレテ津輕ノ地ニウツサル同
 ヤ七月三日津輕ハ餘リニ遠キ境トテ越後郡沼
 地ニテ信濃川中島ノ地ニ國ニテ所領賜リシニ
 正則頗ル御使ニ對得ノ事アリシ程ニ罪弥々重ク

ナリテ信濃国ヘリ流サレケリ子息備後守正勝
 父ト同シク流サレテ明ル六年九月十四日ニ
 死シヌ正則配所ニアル丁元六年寛永元年七月
 十三日歳六十四歳ニテ死テケリ正則國除カレ
 中將直季朝臣ノ語リシニ都石谷將監眞清ノ正
 則ハ東ノ止マカレ酒井雅樂守正則カ守上正
 野々同美濃守政井守雅樂守正則カ守上正
 安藤同美濃守政井守雅樂守正則カ守上正
 徐々トキカレ仰下ナリ議申カ守上正
 守計同アリテ頭事ヤ下ナリ議申カ守上正
 直季者ニテ頭事ヤ下ナリ議申カ守上正
 人リ道ヲ存スル所ナリ仰下ナリ議申カ守上正
 ハ人リ道ヲ存スル所ナリ仰下ナリ議申カ守上正
 去レト先ツ存スル所ナリ仰下ナリ議申カ守上正
 存スル所ナリ仰下ナリ議申カ守上正

次シリリ知ラニ命上人使讚守下ヲ弁國ハハ渡セ世
 本ケテアニサニヨホノ岐忠知家石マトレツ仰ニ
 多レ早リ従ル國受リ路國守政ヲ人近ニテ催ニマ
 縫ハリトフニツラ賜次リ正松加亦大テ信ヤシコシ
 殿家其テハ似サ守ル近ニ從平藤ニ丈西濃思ケリマ
 頭人國速ヤメケル所使向松阿九入直領國シレ從不
 康ホクニ所リ參西ニツテ平濃馬ミ勝フ川召大ノ時
 俊卷ヲ正ニ除ラント出城出守助ヤ御メ中レ相ヘナ
 ホクサ別トスニ然虫シリ仇至嘉カ便ニ鳴ケ國ケラ
 廣國ケカ申ルニトヒラツ守鎮明ニツウニ家レシ
 嶋ヲ渡許ケ所トニ正正受忠松森國受○安津トニ
 去シニレ正人今則別取義辛美リテ又蓋輕ニ答ハ
 ホル冬ツハ則臣正カ罪ラホ宮作サ安如セノ此ヘ申
 城酒スリ安カノ則家蒙ニ軍内守ケ藝藤ヲ地由申ヘ
 ツサヘ正藤命道カ入リト勢少忠渡國討レハラケキ
 守宮キ則永ツカ命亦領スツ輔政スニ馬越達御ト也
 レ内由自井カニニセ正引忠ホヘ向守後ヤシハニ
 ハ少ツヲ申テルア正シ則具雄多ヤニ重信境召前ニ
 本輔下筆所被ヘラ則國カシ生美由正信濃ヲレ人角
 家知ト理下カスワカ家ヲ駒濃ヲ則永ノレア感ニ

カニヨラタ入ツセテフテ忠則年事元則彼ニ返美
 中ハ出着正トルラテ汝処彼政カ、ア和國ノマシ濃
 子忠来ニ則忠彼答行ホアノ此許リリセニ國シヌ守
 ハアレタカ政、ハ正教レ館仰、疑シ年アヘマ世忠
 罪ルリ刀出、館申則ニハニヲ御ヘ片大ニモシニ政
 エ者忠ヲマノヘニ及縦向承使カノ相ヨ御テ傳弟
 ルニ政ヒリ、内キ對ア令アリニテノ國ヲ使正アニ
 サ侍ニ常ニ常コト面ト忠供己行カノ家ニニ則レ
 レレウヒコノトアニア政、カ向リト都記 関推城
 へハチス待ケ、リニル命士家ニカシニニニ向東記ツ
 キ如向イニニ外暫仰ヘツトニシ○ルマリヒニホ守
 身向ヒト時ヤモソ、カ落モ帰ハ又セシ誤ニ有ニリ
 ノナ正ケ計ニ、侍旨ラスニリ鳥或ルマラトテ地テ
 正ル則ナリニサケツスノ中供居人ニシレ云御時國
 則事ハキカ彼可給傳ト有セ人尤、ア女レト使大ノ
 カアサ娘後、カヘフ堅地ニホ京中レ御ニツツ相ノ
 一リシ、正出シト正リ相ハ、高セト入又知下國軍
 生モ子則居リテ則チカ忠引忠ニ元内一ヲリ家勢
 、七當ソ長ニ、内稍カマ政具政ニ和、説スレノ、
 程代家携袴居シ、アハハ思シニ正五御ニ正又都引

七ノ十部国帯... 御備余使... 所ヲ年忠... 御レ行領... 遺所明向... 令カラ... 正或ナ... 則記ラ... 当ニサ... 家正ル... 則下時... 大カ此... 忠罪ノ... 蒙如ル... 力ハシ... シリ是... 下シ史... 度ハ官...

七ノ十部国帯... 御備余使... 所ヲ年忠... 御レ行領... 遺所明向... 令カラ... 正或ナ... 則記ラ... 当ニサ... 家正ル... 則下時... 大カ此... 忠罪ノ... 蒙如ル... 力ハシ... シリ是... 下シ史... 度ハ官...

高シツカニラシカ起改改モモシ、長ヨカ正人ノ
 マ傳政思テ斯サラテリ、亡ハヤ心政ルニ則ニミ
 イノニ思思ニ馳ンシ当サホチニニ、トツカノニ
 ラ論斯給召フト上株ヤ家レサ價日石傳云ヤ関心ハ
 テニ罪ヘサニ思リニ諫ニハレリ田ノフツウヲア
 テラセヒル増ニ大ノ言忠関ニ又口三下レ原安ラ
 大コラリヘテニ坂シ登登カ一ニウ成ニラモ戦シシ
 坂リレノヤ兩トノラサ原ク成ラカク記黒ニ給モ
 アシ国ヤ湖コ方ヘセン、ヒクニ計ハス田ノハ下
 思レ振ノニ所ノ人ニシト戦ス謀ヲコシル甲ヤ一草
 フ抑ト土カ彼覺一イ下ニシヲ積トノ記斐始為劍
 存正云民ル人ユラカモ思切想ヲミ知弁ア守ニニ、
 セ則ハホニツレイニ兩フラニシリシレ長味コ始
 シ元古カ兩大墨カモ決ヘシサニ人ケヌト政方ソメ
 ハ大ノ歎涕忠クナシ所ヲシハニ是モカ申アナ
 其間人ヲ所ノナルテ、又ハト此從ハ疑スセラレ
 罪ノ、憐彼人ニ謀自御大云思後ハ例当シ、シノハ
 マ知言マカト身ヲ疑坂ヘヒハシノ時ケメ下去石
 ハ事ケセ大ハヌモ決ヒ、ニシ我ノ臆正レシハラ例
 ア慕ル給忠イニ想思ナ軍向カ身ヲア則ハニイハ、

罪敵心ニラテ給シヲシラ父ナリテスシトツ商録
 ラセフ罰ツフヒトマ給用トシテ天レタヘリ、父ニ
 許シモ行是、シサ然フユ共参申下ハマ聖給御ヲ
 サト弁ハレ心ハレルハレニラセフ黨ヒ人ノ子般ニ
 レ思ハレ彼、彼シニカ下又セニ乱シテツニナ、彼
 シモスヘ功改、ハ大ラアシシトラ結世シレ封、
 下シ總キニラ旧ニ御スリヨ者ハシヒ乱テ燕ハセ御
 正下、時報ニ功メ所マヒリニト盟リア五トラ争
 則ノ城、ヒ下ヲ彼斯シ九モ其ホスヲ給ラ子テレヲ
 一ウ一サ給ヲ忘、リテ聖猶罪ヲ是司フセ會此ニカ
 人タツリニ計レ官レ暴入深真聞、トヘ給、後ニリ
 ノテラヒシリ給モサ悪ニシニニミリキア国ニコア
 旧ヤカナキ給ハ位セカア總准守ナテリ比讓及ソカ
 功ヨララマヒマヲ給ク、リ令表殿ヲ東レイラニメ
 ヲ斯リニメシ下モ将ノラ正徐ツス西ニカシ天々給
 思リシニニナニ昇軍如モ則我ニ参、正テ下下レヒ
 シシテカラル示ラ家ノ其能、ヲ河御則カレヲ如ニ
 召キ天ホ此ヘシヒ世ナ誅ヲ武管殿中カ、ハサ何ハ
 シリ下ト後シ給進シリツ五康蔡ヘヲ稍ルシケニ武
 候ニニノ正然ヒ、ニシ許氏録、卷簡モ下大辰

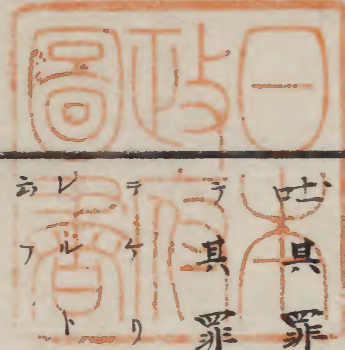
新編
草言
卷之

此シ祖本勝リ計兼禍スヤシヲ世ニ
 出ス父國カニテ招ラ其トサ、常、天
 市サ此流ニ妾ヲソフリヤノ余モリ命
 松レ入サテノソア大謀シハシ如、人
 ノシ道レ生腹ア取ラ者アハシカ、己
 下兵子時マ母ウホ軍シ真テクシ、及
 正頼舎兄ト共ニ德川殿ノ御方
 有ト松ト思卑シ子ケア○日ノ人カハ
 ケ云ルツ上ケレリ正諫絶給ハ思フニ
 後入シ兵カ參ハ思フニ動ニヤハ
 道シレ衛正備シラニ勤ニヤハ
 將軍宣人長後守ノ様ニヤハ
 召トシ云正如何ラハテ

伊勢國長島ノ城ヲ正頼領ス
 海道ヨリ馳上リ巴カ城ニ插籠ル無勢ト
 山岡備前入道道阿彌ヲ加勢トナサレ
 原隠岐守胤房太田ニ陣取ニ此城ヲ攻シモサス
 カニ無勢ナレハ押ヨセテ攻ムルマテモナクダ
 カヒニ兵ヲ出シテ戦フ斯ル処ニ関ケ原ノ合戦
 上方ノ軍破レシカハ胤房イツクモナク落失マ
 正頼正則カ弟トシニ巴カ城ヲ守リ得タレハ此
 年十一月大和國守田ノ城ヲ賜フテ移ルモ正
 長十九年正月大御所関東ニ渡ラセ給フ正頼
 侍一封ノ書献ニ告申旨アリ此月ノ末駿河ノ
 國府ニ歸ラセ給ヒシハ蒲原ノ雷ニシテ再ニ書

新編
草言
卷之

ヲ献ルコトシ八月正頼カ郎從亦彼書献シ侍ヲ
駿河ノ国府ノ所ニシテカヲメ取ル所奉行彦坂
九兵衛尉光政怒リテ奉行ニモ告スシテホシイ
マニニ城下ニ人ヲトニフル條頼ハ狼藉至リ
ナリト云ヒケレハ正頼聞ニ正頼カ郎徒ヨ正頼
ヲ追捕セシニ何奈事カアルヘキ斯ル不思議ナ
レ莫ク承ルモノカナト答フ大御所此由ヲ聞シ
召シ彼トラヘラレシ侍ノ繩トキヲ追却シ追捕
セシ輩ヲ禁獄セラレ程ナク大坂ノ軍起リシカ
ハ何ノ御沙汰モナク明ル元和元年五月大坂ノ
事終リテ後同キ六月ノ末正頼ノ元ニ小堀新助



後ニ運中坊右近ヲ御使トノ汝カ家人告訴アル
所汝カ罪ノカレ難シト云モ汝ノ兄ノ正則ノ功
ヲ思召リ故ニ何ノ御咎ノモマニス丈ニ又猥ニ
法ヲ犯シテ刺ヲ奉行タラシ者ニ無状ノ言葉ヲ
吐具罪既ニ重疊セリ然リト云モ格別ノ議ヲ以
テ其罪宥ノラレ所ニトテ所領ヲ没収セラレ
息ニヨリテアリ其後一人將軍家ニ召シ出サ
云レテアリ

